

*大正10年11月1日、大正11年11月1日付文部省職員録—その2—

アーカイブ室新聞第669号に「大正10年11月1日、大正11年11月1日付文部省職員録—その1—」という記事で主に大正10年の文部省職員録について書いた。今回はおもに大正11年の職員録について書く。まず目次の東京帝国大学の項が写真1である。

東京帝國大學	九二
法學部	一〇二
醫學部	一〇六
工學部	一一〇
文學部	一三三
理學部	一四一
農學部	一四八
經濟學部	一六〇
傳染病研究所	一六三
航空研究所	一六八
東京天文臺	一七二

写真1 大正11年版の目次の東京帝国大学の部分

大正10年の職員録の目次の東京帝国大学の項が写真2である。

東京帝國大學	八八
法學部	九六
醫學部	一〇〇
工學部	一一四
文學部	一二五
理學部	一三三
農學部	一四〇
經濟學部	一五一
傳染病研究所	一五四
航空研究所	一六〇

写真2 大正10年の目次の東京帝国大学の部分

写真1と写真2を比較すると、大正10年の職員録では東京天文台は東京帝国大学の学部相当のところには登場しないが、大正11年の職員録では学部と対等な扱いになっていることがわかる。すなわち大正10年には東京天文台は理学部附属であったが、大正11年には大学附置となり、学部と対等になったということがわかる。そして東京天文台の項には写真3のような職員が並び、理学部と兼任のものには(兼)と書かれて並んでいる。

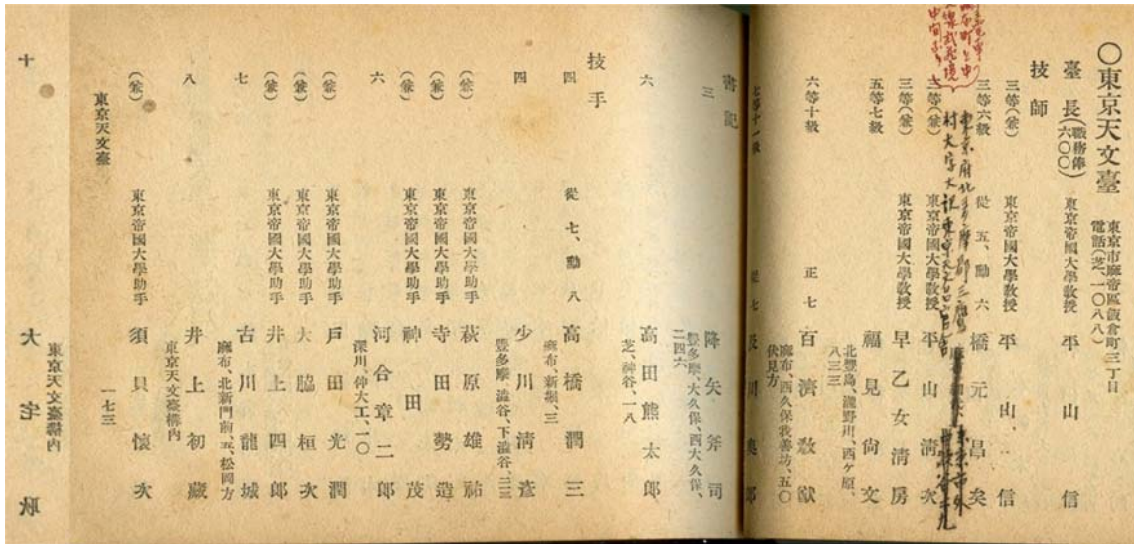


写真3 東京天文台職員の項

大正11年の名簿には、大正10年の名簿になかった萩原雄祐、井上四郎などの名前も見える。このことから大正10年と11年では大きな変化があったことがうかがえる。

大正10年、11年の職員録の表紙裏には文部省電話のページ(写真4)がある。興味深いので載せておこう。私設電話とあり、1番から50番までであるが、5番、12番、16番、24番、27番が欠番になっている。また26番は、局長と各掛事務室とあり、妙な感じを受ける。

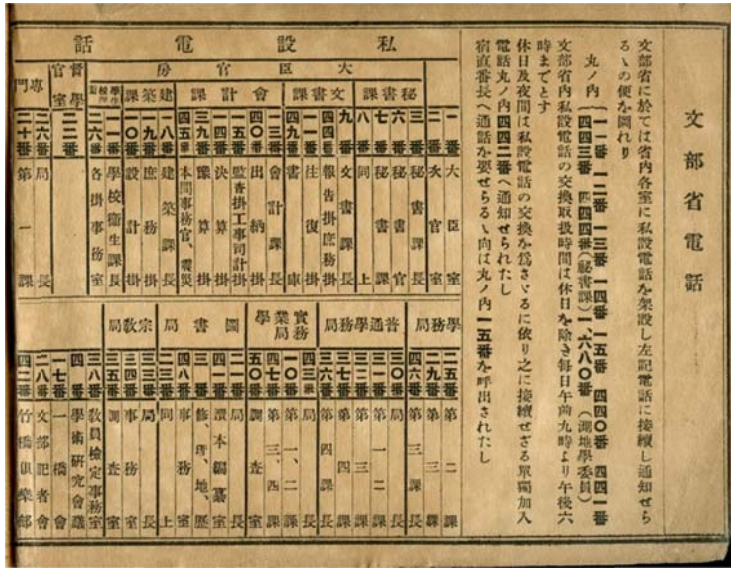


写真4 電話番号

大正 10 年の緯度観測所の名簿には所長木村栄の次に橋元昌矣の名前があったが、大正 11 年の緯度観測所の名簿（写真 5）には、その名はなく、東京天文台にある。65 cm 屈折望遠鏡を組み上げた橋元昌矣は、まさにそのために異動したのであろう。

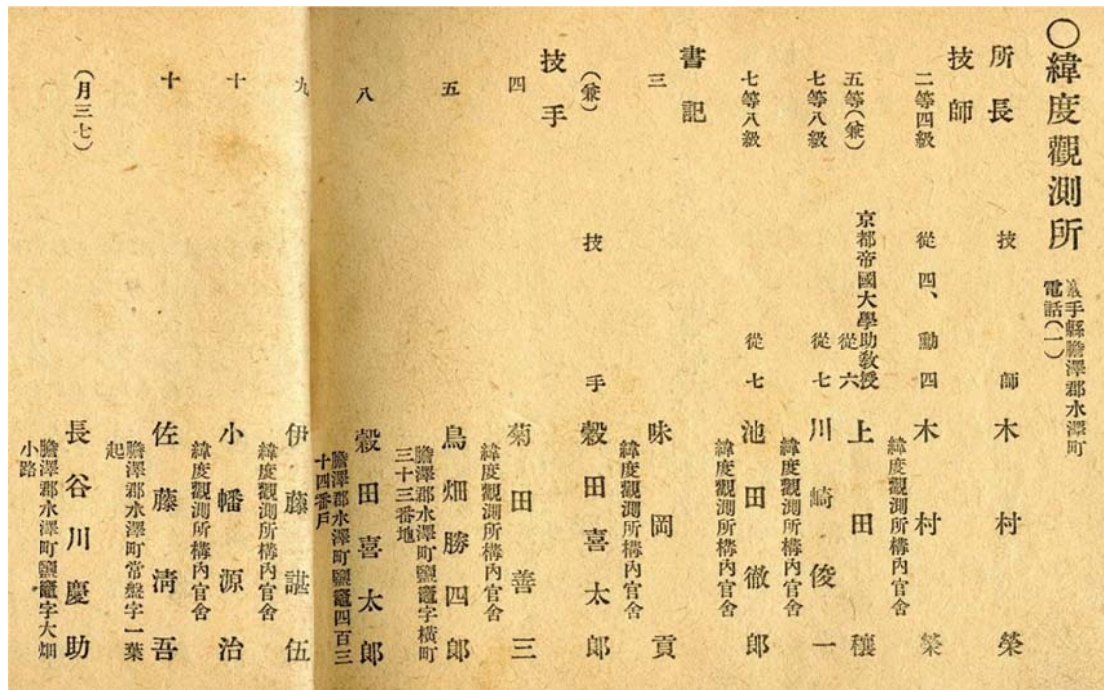


写真 5 大正 11 年の緯度観測所の名簿

大正 11 年の文部省職員録には当時の俸給表が載っている。これは非常に興味深いので、稿を改めて、一その 3- で書きたい。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp